



2018

公益財団法人
京都市
環境保全
活動推進協会
事業報告書



公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 2018年度 事業報告書

●対象期間 2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)
の事業を中心に、過年度からの継続的な事業や次年度に向け
けた事業、将来の見通し・予定などについて記載しています。
●発行日 2019年10月

公益財団法人京都市環境保全活動協会(以下、「協会」という。)は、2001年2月に設立されました。協会は現在、京都市の環境学習施設である京都市環境保全活動センター(「京エコロジーセンター」以下、「エコセン」という。)の指定管理者等の活動を通して、様々な主体とのパートナーシップにより「持続可能な地域社会の実現」を目指して、事業運営を行っています。本報告書は多くの方々による事業の内容や、その果たす役割、成果をわかりやすく理解いただくためのツールとして作成しています。

協会の概要

環境に配慮した市民の
自主的な行動による
地域社会づくりに寄与する

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会は、持続可能な社会(低炭素社会・循環型社会・自然共生社会)を実現するため、市民・事業者・行政・教育機関と連携を強め、広く環境保全活動を推進することにより、環境に配慮した市民の自主的な行動による地域社会づくりに寄与することを目的に設立された法人です。

この目的の達成のために、環境意識の普及・啓発、環境情報の発信、環境保全に関する調査・研究、環境教育及び人材育成、環境保全のための市民、事業者等との連携、支援、環境意識の向上のための国際的な連携、支援、環境保全活動に関する施設の管理運営等を、市民・事業者・行政・教育機関とのパートナーシップに基づき行ってまいります。



千年の都、
京都から未来へ

環境保全活動を通して
恵み豊かな景色を
引き継いでいきます。



表紙写真：伏見区でのロケットストーブ製作会の様子(P.22 桃山エコ学区事業)

ミッション

持続可能な地域社会を築くための活動に参加・参画する人を増やし、人と人、様々な団体をつなげる。

●私たちは、環境ボランティアを始めとした、人材育成講座を中心に展開し、環境保全活動を始めるベースを身に付けた人を増やし、実際に活動の場を提供し、自主的に活動を展開できるスキルを身に付ける支援をします。

●私たちは、活動する場が増えるよう、京都を中心とした地域社会、NGO、事業者、行政、教育機関との連携を密にし、多くの人材が自主的に活動を展開し、個人や団体の活動の輪を拡げることがを支援します。

●私たちは、様々な場所で展開される新たな環境保全活動を充実したものにすため、育成した人材が携え、様々な場所で展開されていくようなプログラムを開発します。

●私たちは、多くの場所で環境保全活動が展開されていくために、人材育成・支援、活動の場創り、ソフト開発で得たノウハウ、成果を国内外に発信します。

ビジョン

- ①京都における環境保全活動に参加・参画する人の輪を広げ、毎年多くの環境人材を輩出しています。
- ②京都を中心とした地域社会、NGO、事業者、行政、教育機関との連携を密にし、各主体を有機的に結びつける「ハブ」になります。
- ③活動に活用される環境教育プログラムなどのソフト開発と普及の役割を担っています。
- ④私たちの活動の成果やノウハウを世界に発信し、国際的にも環境教育・環境保全活動の推進に働きかけられる存在になります。

6つの方向性

- ①地域社会との連携を深める
- ②パートナーシップをこれまで以上に
- ③人材育成
- ④京都の環境保全活動・環境教育のノウハウを全国・世界へ波及
- ⑤環境学習ツール・プログラム開発力の強化
- ⑥発信力の強化

目次

特集 SDGs(持続可能な開発目標)と協会の活動	3
事業実績	5
理事長メッセージ	6
環境学習・環境保全活動支援事業	7
見て触れて考える私たちと地球	7
冊子やホームページ・SNSでエコを伝える	11
子どもも大人も楽しく学ぶ	13
市民目線の展示解説が魅力	17
連続講座で担い手を育成	19
多文化・多世代とつながる	20
地域環境活動支援事業	21
エコを切り口に地域力アップ	21
国際事業	25
京都モデルを生かし海外の人材育成	25
講師派遣事業	29
セミナー等へ講師派遣	29
その他事業	30
蓄積したノウハウの活用	30
パートナーの声	31
事業運営体制	32
京都市の環境中間支援組織3団体の統合について	33
中長期計画	35
沿革	37
インフォメーション	38

環境学習・環境保全活動支援事業

京都市の環境学習施設「京(みやこ)エコロジーセンター」の指定管理業務を行い、様々な環境学習プログラムを展開しています。

地域環境活動支援事業

京都市の「エコ学区に係る学習会等支援業務」を受託し、地域コミュニティの相談窓口「エコ学区サポートセンター」を運営しています。

国際事業

これまでの事業で積み重ねたノウハウを、海外での環境保全活動推進に役立てるため、研修受け入れや技術移転を行っています。

講師派遣事業

環境学習、環境をテーマにしたワークショップ、セミナー等へ、当協会の職員を講師として派遣しています。

その他事業

環境学習施設運営やボランティア制度構築をご検討中の方々向けに、運営ノウハウの提供や制度設計のコンサルテーションを行います。

SDGs(持続可能な開発目標)と協会の活動



松尾学区(西京区)の総合防災訓練で「エコ×防災」ワークショップを実施(11月11日)



協会は開館以来、幅広い年代を対象に、温暖化防止・ごみ減量・生態系保全等の学習プログラムを提供

協会が取り組む主な目標



- 3** すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する。
- 4** 質の高い教育をみんなに
すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。
- 7** エネルギーをみんなにそしてクリーンに
すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する。
- 11** 住み続けられるまちづくりを
都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする。
- 12** つくる責任 つかう責任
持続可能な消費と生産のパターンを確保する。
- 13** 気候変動に具体的な対策を
気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る。
- 14** 海の豊かさを守ろう
海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する。
- 15** 陸の豊かさも守ろう
陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る。
- 17** パートナリシップで目標を達成しよう
持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる。



SDGsは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年 9月の国連サミットで全会一致で採択されました。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、国連加盟 193ヶ国が2030年を年限として達成するべく掲げた 17の国際目標です。



「エコセン防災キャラバン」を開催し1800名以上が参加(12月1日、2日)

ています。2018年は、環境学習・環境保全活動支援事業として、全館イベント「エコセン防災キャラバン」を開催し、1800人以上が来場しました。

●例2 健康と福祉
住宅の省エネ化(遮熱・断熱)が熱中症・ヒートショック予防となることに着目し、地域環境活動支援事業として、高齢者世帯を対象に、省エネ診断・簡易リフォーム・省エネと健康に関する学習会を実施しています。

●例3 グローバルパートナーシップ
国際事業の中で、2008年度から



マレーシアで、京都発の参加体験型低炭素教育を実践している様子

日中友好環境技術情報プラザ(中国・北京市)設立への協力、2011年度から海外研修員受け入れ(2018年度までに、のべ18ヶ国・133名)、2016年度からマレーシアで低炭素教育・地域コミュニティでの環境活動支援に取り組みました。

当協会は、今後も引き続き、エコをキーワードとしたSDGsの達成に向けて活動を充実させ、特に担い手育成に力を入れていきたいと考えています。

2018年は、G20大阪サミット(2019年6月開催)に向け「SDGs」への注目・関心が大きく広がった年でした。当協会は設立以来17年間、エコセンを拠点として、循環型社会・低炭素社会・自然共生社会を目指す教育・生涯学習に、専門的に取り組んできました。子どもから大人まで幅広い年代を対象に、温暖化防止・ごみ減量・生態系保全等を学ぶプログラムの企画・実施を、市民団体・事業者・行政そして環境ボランティア等とのパートナーシップのもと、続けていきます。

そして近年では、SDGsの中で包摂的に提案されている「防災」「健康と福祉」「グローバルパートナーシップ」に関わる事業に積極的に取り組んでいます。

●例1 防災
2012年度から、地域環境活動支援事業の中で「エコと防災」に取り組み、災害時に自然エネルギーや再生可能エネルギーを活用する方法を提案し

理事長メッセージ

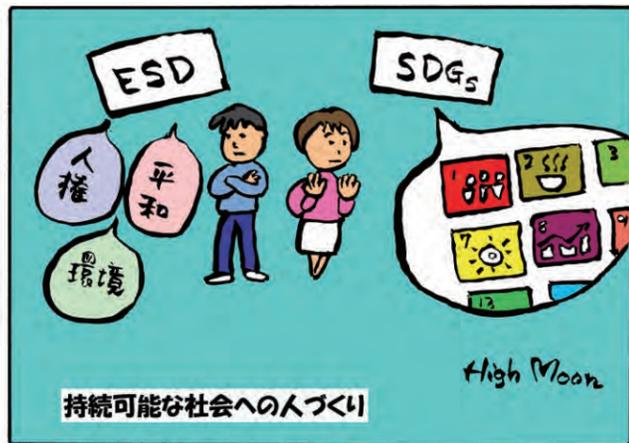
理事長プロフィール

京都大学名誉教授。専門は廃棄物管理。主な著書に『ごみ問題とライフスタイル』（日本評論社）、『エコロジーテスト』（講談社）、『有害廃棄物』（中央法規）、『現代環境論』（有斐閣）等。ハイムーンのペンネームで、環境・廃棄物問題を訴える漫画家として日本漫画家協会に所属。国内を始め、イギリス・中国・インドネシア・マレーシアでも個展を開催。漫画家としての著書に『ゴミック「廃棄物」』第1～8集（日報）、『絵コロジー』（合同出版）、『まんがで学ぶエコロジー』（昭和堂）等がある。



公益財団法人
京都市環境保全活動推進協会
理事長 高月 紘

高月 紘

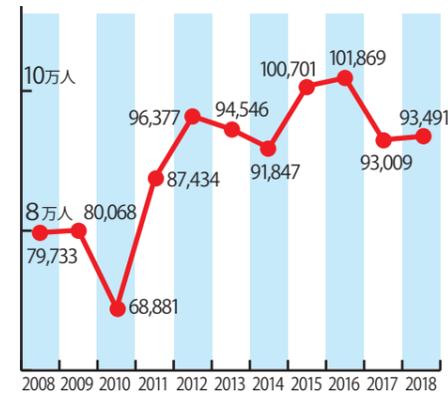


持続可能な社会を目指す人づくり

京都市環境保全活動推進協会が指
定管理する京エコロジーセンターで
は常々「環境保全活動に励む人材育
成」に努めているところですが、最
近では環境だけに特化した活動には
人々の関心がやや薄れているように
感じられます。そんな中、環境教育
の分野では「ESD（持続可能な開
発のための教育）」や、国連の提唱
する「SDGs（持続可能な開発目
標）」に関心が高まっています。私
たちが目指すのは、もちろん良い環
境が保たれた社会ですが、たとえ優

れた環境になっても、紛争の絶えない
社会や差別が厳しい社会では持続可能
な社会とは言えません。
その意味で、ESDやSDGsが目
指す、環境はもとより、人権、平和、
貧困等の社会問題に取り組む活動が求
められます。
当協会としても、環境保全活動だけ
でなく、持続可能な社会につながる活
動に関心をもって取り組みたいと考え
ます。どうか、皆さんも持続可能な社
会を目指す人づくりに積極的な参加を
お願いします。

京エコロジーセンターの入館者数



京エコロジーセンターの入館者数

	2008	2009	2010	2011	2012	2013
全体入館数	79,733	80,068	68,881	87,434	96,377	94,546
団体見学	8,850	5,911	6,714	6,026	5,468	6,104
エコ学習	10,817	5,598	4,013	5,219	5,504	4,949
会議室等	6,707	5,280	5,432	4,987	4,807	4,430
一般来館者	53,359	63,279	52,722	71,202	80,598	79,063

	2014	2015	2016	2017	2018
全体入館数	91,847	100,701	101,869	93,009	93,491
団体見学	6,091	5,859	5,018	5,517	4,920
エコ学習	4,794	3,944	3,961	4,608	3,383
会議室等	4,359	4,894	5,114	5,158	4,880
一般来館者	76,603	86,004	87,776	77,726	80,308

入館者7年連続9万人超え
活発な広報と青少年科学センター
との連携が要因

台風等による臨時休館が5.5日あった
にも関わらず、前年度より482名増
7年連続で9万人を超えました。
ホームページやSNS等を活用した
広報、隣接する青少年科学センターと
の連携による部分が大きいと考えます。
今後も継続して、新規来館者・リピー
ターの確保に努めます。

正味財産増減の状況

事業年度	2016	2017	2018
経常収益	208,496	208,179	210,937
経常費用	220,836	207,274	204,692
経常増減	-12,340	905	6,244
経常外収益	0	0	0
経常外費用	0	0	0
正味財産増減	-12,340	905	6,244
資産合計	180,215	161,242	158,490
負債合計	57,380	37,501	28,505
正味財産	122,835	123,741	129,985

単位：千円

持続可能な組織経営を目指して

協会は、営利を目的としない公益財
団法人として事業実施しています。
現状では、京都市受託収入が大半を
占めますが、持続可能な組織経営に向
けて、新たな事業展開にも挑戦してい
きます。



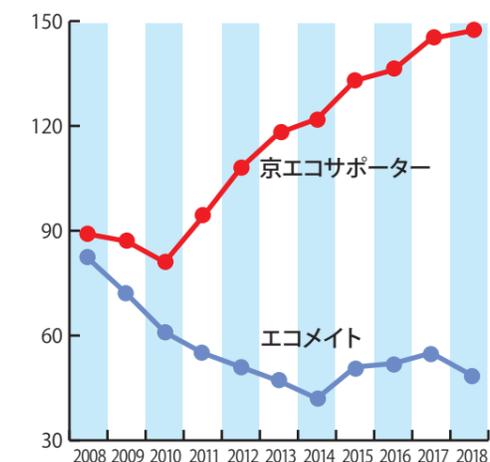
環境ボランティア登録者数の推移

登録者	2008	2009	2010	2011	2012	2013
エコメイト	82	72	61	55	51	47
京エコサポーター	89	89	87	81	94	108
合計	171	161	148	136	145	155

登録者	2014	2015	2016	2017	2018
エコメイト	42	51	52	55	49
京エコサポーター	118	122	133	136	145
合計	160	173	185	191	194

環境ボランティア登録者が 過去最多の194名

エコセンの特徴の一つは環境ボラン
ティアの存在。魅力的な人が介在する
施設を目指しています。2018年度
の登録者数は過去最多の194名。自
ら環境に配慮した暮らしを実践するボ
ランティアが、入館者を温かくご案内
します。



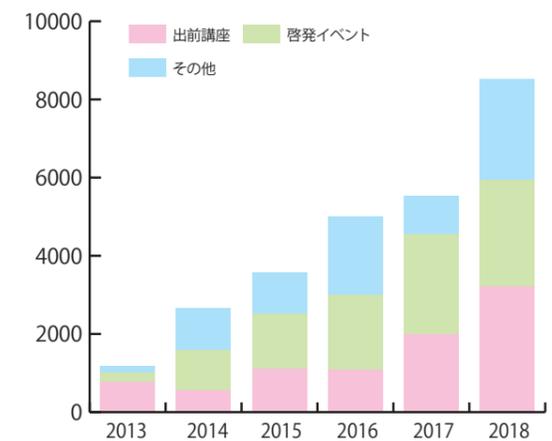
地域環境活動に参加された人数

年	出前講座	啓発イベント	その他	合計
	参加人数	参加人数	参加人数	参加人数
2013	778	224	180	1,182
2014	559	1,017	1,089	2,665
2015	1,109	1,407	1,050	3,566
2016	1,080	1,923	1,999	5,002
2017	1,993	2,556	977	5,526
2018	3,212	2,731	2,567	8,510

※協会主催イベントを含む

職員や環境ボランティアが 出向いて、出前講座などを開催。 前年より3000名の参加増

当協会は、地域のエコ活動を支援し
ています。
2018年度も、地域に職員と環境
ボランティアが出向き、出前講座を開
いたり、地域の方々と年間を通じ「エ
コイベント企画」「緑のカーテン育成」
「自治会館エコ改修」等に取り組みま
した。



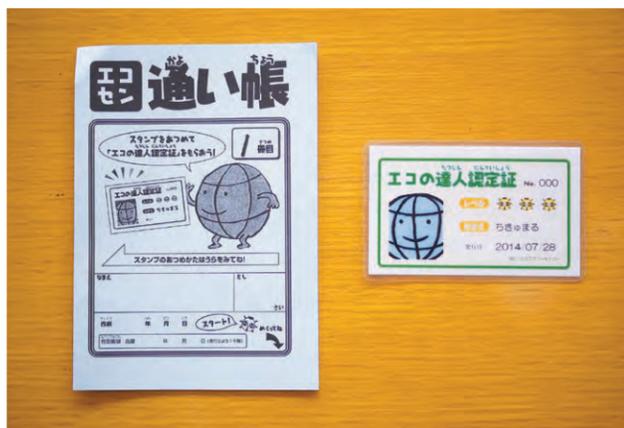
事業実績 数字で見ると2018年度



開館当初から、環境ボランティアが学習のサポートを行っている



館内ガイド活動を行う環境ボランティア



「エコセン通い帳」と「エコの達人認定証」で何度も来館し、楽しめる



団体見学案内チラシを、小学校や旅行代理店に配布



エコセンの常設展示コーナーで団体の案内をする職員



エコセン屋上にはピオトープと田畑がある

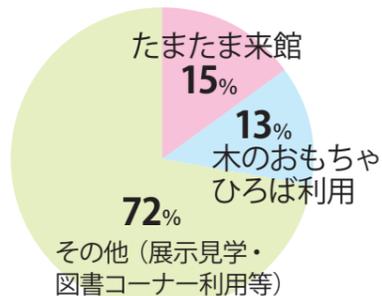
エコセンのエントランス

見て触れて考える私たちと地球（エコセンの魅力伝える）

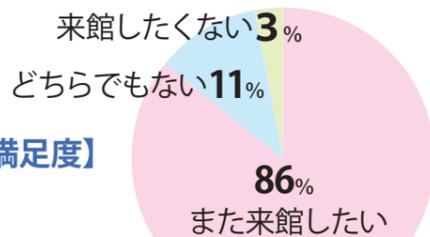
2018年度 来館者アンケート結果

(回答数：508件)

【来館目的】



【満足度】



団体見学を広く広報し、見学者数の増加を図るために、団体見学チラシを送付する京都府南部近郊の他府県（高槻市、奈良市及び大津市等の26市町）の小学校を昨年度の290校から568校へ大幅に増やしました。旅行会社への団体見学チラシの配布は、昨年度の221社から240社へ増やしました。

「エコセン通い帳」は、年間で延べ2316名が参加しました。また、「エコの達人認定証」を60枚発行し、スタンプを60個集めた殿堂入りが新たに4名誕生しました。

環境保全に関する活動のための施設の提供

当協会が指定管理する京エコロジセンター（エコセン）は、京都市の環境教育・学習の中核施設として、身近な生活や京都の特性を生かした環境教育・学習を進めるため、団体や一般来館者の見学を受け入れています。

団体見学の増加を目指し、広報を強化

2018年度、団体見学の年間受入件数は、338件（8303名）で、京都市立小学校を対象にしたエコ学習が171校（3383名）でした。昨年と比べて団体見学は、11%（597名）、エコ学習は27%（1225名）減少しました。受入件数自体は昨年度（345件）から大きく減少していませんので、1団体を構成する人数が少なかったことが要因と考えられます。

◇2018年度 企画展示関連イベント

日程	タイトル	講師	人数
12/9	水を使った自分だけの電池を作ろう	職員	45
1/13	絵本の読み聞かせ会	朝日 仁美氏 JPIC 読書アドバイザー / 絵本専門士	56
2/2	北限に生きる動物のオーナメント作り	職員	16
3/30	絵本から広がるSDGs スタンプでエコバッグ作り	石橋 幸子氏 (NPO)アトリエ Petata 理事長	80

◇2018年度に実施した企画展示

日程	事業名・共催団体等
1 5/22~7/1	「世界のこども環境絵画展」
2 7/13~12/16	「水素から未来のお知らせ」
3 7/18~8/29	「平成 29 年度 (第15回) 京都環境賞受賞者の活動紹介パネル展示」 京都市環境政策局環境管理課
4 7/20~9/3	「夏休み限定！クールチョイス☆チャレンジ展」 京都府地球温暖化防止活動推進センター
5 9/10~9/28	「農業・農村のいろいろな働き～農業・農村の多面的機能～」 近畿農政局
6 10/31~11/7	「第 33 回京都まちとみどり写真コンクール展示会」京都市都市計画協会
7 11/14~12/12	「2019 年 環境カレンダー原画展」
8 1/11~3/31	「ごみ減量プロジェクト～廃棄学校制服が大変身！～」 (一社) 日本繊維機械学会繊維リサイクル技術研究会
9 1/12~3/31	「地球温暖化に生きる生きもの展」
10 1/12~6/30	絵本で学ぶ世界の環境展 ～SDGsの視点で選ぶ絵本の世界～

24557305_001



児童書コーナーに新たに設置した本棚。表紙が見やすく、子どもたちが本を選びやすい



かんきょう図書コーナーでは、多くの親子連れ等が読書やDVD鑑賞を楽しんでいる



話題のプラスチックごみについて展示を新設した



グリーンコンシューマーの常設展示をリニューアル



企画展示関連イベント「絵本から広がるSDGs スタンプでエコバッグ作り」



共同主催型企画展「ごみ減量プロジェクト～廃棄学校制服が大変身！～」

1121 環境保全に関する資料及び装置の展示

エコセンでは、展示を通じて、環境保全に関わる啓発を行っています。また、エコセン主催及び他団体との共催の企画展示も開催しています。

「くらしと環境」
常設展示をリニューアル
SDGs企画展も実施

くらしをテーマにしたグリーンコンシューマーの常設展示において展示物の入替や追加を行い、買い物と環境を身近に意識できるようにしました。

企画展示は、主催の企画展示5件、共同主催型企画展示4件、公募型企画展1件、計10件を開催し、企画展関連イベントを4件実施しました。エコセン主催の企画展「絵本で学ぶ世界の環境展」SDGsの視点で選ぶ絵本の世界」では、子どもも環境について学べるよう、また、日本国内だけでなく海外のことも学べるような工夫をしました。

2018年度は、かんきょう図書コーナーで、年間貸出人数743名、貸出冊数が2518冊ありました。また、370冊の資料を新たに追加しました。

さらに、児童書コーナーに、子どもが資料を取り出しやすく選びやすい本棚を新たに設置しました。

1131 環境保全に関する情報の収集及び提供

エコセンでは、環境に関する資料を幅広く収集し、かんきょう図書コーナーにおいて閲覧していただくことで、市民の環境意識の向上を図っています。

年間2500冊以上の貸出冊数。そして児童書棚をリニューアル



「ちきゅまるのはこ」は、セルフガイドで遊びながらエコについて学べる



木のぬくもりが魅力の「木のおもちゃひろば」は、親子連れの利用者に人気

子どもたちに人気の「木のおもちゃひろば」は、年間で8602名「ちきゅまるのはこ」は、年間で2020名の利用がありました。

冊子やホームページ・SNSでエコを伝える（情報発信）



「京のくらしと人とエコ」がコンセプトの季刊誌「エコせん」を、年間6回発行

1143 広報誌の発行

読者に家庭でエコな暮らしを意識・実践してもらうため、また、エコセンへ来館するきっかけをつくるために、季刊誌「エコせん」を年6回、各550部発行しました。

2018年度は、季刊誌のコンセプト「京のくらしと人とエコ」やメイン



季刊誌の特集内容と連動し、野鳥観察イベントを開催した(3月2日)

の読者層である親子や女性を意識し、様々な切り口から家庭で取り組めるエコライフを紹介する等、読みやすい誌面づくりを行いました。

◆季刊誌発行号と特集内容

発行号	発行日	特集1	特集2
No.55 (6月号)	5/20	「未来をおもう人間はとて美しい」 伊勢 武史氏： 京都大学フィールド 科学教育研究センター 准教授	いろいろな 食べ方
No.56 (8月号)	7/20	「ものづくりと真剣に 向き合って」 藤岡 正章氏： 藤岡酒造 蔵元	暮らしに 欠かせない水
No.57 (10月号)	9/20	「かっこいいって なんだろう」 森 裕佑氏：凛靴	ドライ フラワー とスワッグ
No.58 (12月号)	11/20	「サステナブルな 社会はきっと楽しい」 渡邊 良則氏： (株)サーカスコーヒー	洗剤を 使わない そうじ術
No.59 (2月号)	1/20	「私たちだけに できること」 寺田 綾乃氏： 日本野鳥の会京都支部	おみそ汁の ススメ
No.60 (4月号)	3/20	「私たちの森は 私たちの手で守ろう」 京都宝の森をつくる会	春の トレッキング

1144 ホームページ等による情報発信

2018年度、エコセンホームページを多言語対応・文字サイズ変更可能にし、様々な人が見やすくなるよう全面リニューアルしました。結果、アクセス数がリニューアル前と比べ3月末時点で約6000件増加しました。

また、イベント等の情報を、ホームページ・SNS・メールマガジン、外部の情報媒体等を活用して発信し、プレスリリースも6回行いました。

さらに、イベント案内チラシを隔月



Facebook、YouTube等で情報発信を行っている

1142 環境副読本発行

小学校や中学校における総合的な学習の時間や各教科で、地球温暖化をはじめ幅広く環境問題について学べる環境副読本を作成し、市内すべての小学校および中学校に配布しています。毎年、データを更新し、時勢にあわせたテーマのコンテンツを盛り込む等、改訂を行っています。

2018年度は、2019(平成31)年度版環境副読本を、小学4年生用、



毎年環境副読本を作成し、学校を通じて京都市内すべての小学4年生・小学5年生・中学1年生に配布している

小学5年生用各14500部、中学生用15500部作成・配布しました。配布時にはアンケート用紙を同封し、学校現場の意見収集に努めています。

1141 啓発冊子発行

市民の環境意識を高めるために年1回発行しており、今年も「持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言」の紹介、温暖化の現状、温暖化が進んだ場合の京都の状況、緩和策、適応策のほか、IPCC総会京都市開催等につ



いて記載した冊子を、11月に発行しました。(4000部)

市民の環境意識を高めるために作成した啓発冊子

アクセシビリティを改善し、英語・韓国語・中国語の概要ページや自動翻訳機能の追加を行った



ドキュメンタリー映画「おだやかな革命」上映会(1月20日)



企業との連携イベント「「すいそ」エネルギーで、最先端の車を走らせよう！」(7月31日)



イベント「作って遊ぼう！くるりん積み木カー」(8月18日)

◇2018年度に主催したイベント(実施件数:41件 参加者数:3,931人)

日程	タイトル	講師	人数
4/15	京エコロジーセンター開館16周年イベントシンポジウム「極地から見てきた地球温暖化～持続可能な未来の暮らしを目指して～」	高月 紘 氏 京エコロジーセンター館長 山内 恭 氏 国立極地研究所 総合研究大学院大学名誉教授 江守 正多 氏 国立環境研究所 地球環境研究センター 気候変動リスク評価研究室長	82
5/12	第1回えこそらキッズ		40
5/20	映画「tomorrow～パーマネットライフを探して～」		62
5/26	親子で簡単重ね煮クッキング	いんやん倶楽部	17
6/2	第2回えこそらキッズ		23
6/10	南極クラス in エコセン	(株)ミサワホーム総合研究所	19
6/30	第3回えこそらキッズ		39
7/1	買い物袋でマイバックづくり	poRiff	25
7/14	第4回えこそらキッズ		30
7/22	映画「ロボッツ」上映会		218
7/25	いきもの探偵団		19
7/28	雲ってなあ～に？雲を知って、お天気博士になろう！	一般社団法人日本気象予報士会 関西支部楽しいお天気講座	95
7/29	作って遊ぼう！くるりん積み木カー	Let wood be 中山カズト氏	84
7/31	「すいそ」エネルギーで、最先端の車を走らせよう！	本田技研(株)	64
8/3	ガラス絵作り～空きびんのリサイクル体験～	宝酒造(株)	45
8/4	第5回えこそらキッズ		37
8/5	電車のエコを知ろう！～クイズde京阪&制服でハイチーズ～	京阪ホールディングス(株)	120
8/5	子どもクッキング教室～自分で作るカンタンごはん～	平田 早紀子氏	24
8/8	ワラを使ったオブジェ作り	藤井 桃子 氏(花背WARA)	32
8/17	葉っぱや草花でしおりを作ろう！	名神深草森の会	94
8/19	京都の木でイスを作ろう	京都木材青年経営者協議会	78
8/25	第6回えこそらキッズ		27
9/8	第7回えこそらキッズ		30

日程	タイトル	講師	人数
9/13	地球温暖化の意識啓発アニメ『ガラスの地球を救え！』上映会		68
9/29	第8回えこそらキッズ		22
9/30	あるもん de 簡単パーティークッキング(※台風24号のため中止)	あるもんdeプラス	—
10/13	第9回えこそらキッズ		14
10/20	IPCC総会 京都市開催記念 京都宣言発信リレー事業 「気候変動から見たSDGs ～世界を変える市民のチカラ～」	大井 通博 氏 環境省地球環境局総務課研究調査室 室長 藤野 純一 氏 (公財)地球環境戦略研究機関 (IGES) 都市タスクフォースプログラム ディレクター 上席研究員 大西 啓子 氏 (認定NPO)きょうとグリーンファンド 石崎 雄一郎 氏 ウータン・森と生活を考える会 大豊 盛重 氏 (公社)日本国際民間協会	88
11/10	第10回えこそらキッズ		28
11/23	カカオ豆からチョコレートを作ろう！	Dari K(株)	59
11/24	第11回えこそらキッズ		30
11/25	乾物を使った簡単クッキング～身近な乾物でもう1品～	江種友紀氏(Honey Ant)	11
12/1 12/2	エコセン防災キャラバン～エコで家族と地球を守ろう！～		1,811
12/8	第12回えこそらキッズ①		20
12/15	第12回えこそらキッズ②		21
1/12	第13回えこそらキッズ		27
1/20	映画「おだやかな革命」上映会		91
1/26	第14回えこそらキッズ		38
2/3	おうちで挑戦！MY味噌づくり	赤井 歩 氏	50
2/23	お米のクッキング	かみなか農楽舎	21
3/2	身近な野鳥を見てみよう	寺田 綾乃 氏 (日本野鳥の会)	8
3/21	映画「ナッツジョブ サーリー&パティのポジション ピーナッツ大作戦！」上映会		220



全館イベント「エコセン防災キャラバン～エコで家族と地球を守ろう！～」開会式の様子(12月1日)



「気候変動から見たSDGs」パネルディスカッションの様子(10月20日)

開館16周年イベント「極地から見てきた地球温暖化」(4月15日)

子どもも大人も楽しく学ぶ環境イベント開催

1145 各種講座や講演会の企画と実施

主に市民を対象に、楽しみながら環境について学べるイベントを企画・実施しています。

2018年度は、木の工作、エネルギー、映画会等、楽しみながらできる暮らしの中のエコや、持続可能な社会について学べる様々なイベントを企画・実施しました。また、子ども向けの年間活動「えこそらキッズ」も年15回開催しました(P15写真参照)。

4月には、開館16周年記念イベント「シンポジウム 極地から見てきた地球温暖化～持続可能な未来の暮らしを目指して～」を、10月には、IPCC総会京都市開催記念 京都宣言発信リレー事業「シンポジウム 気候変動から見たSDGs～世界を変える市民のチカラ～」を、12月には、環境と防災をテーマにした全館イベント「エコセン防災キャラバン」を実施しました。

◇地域コミュニティとの連携 実施一覧

日程	名称	会場	内容
5/15~18	桃陵中学校 職場体験	京エコロジーセンター	職場体験
5/19	祇園祭ごみゼロ大作戦2018 ボランティアリーダー研修会	京エコロジーセンター	ボランティアの心構え等の研修
6/22	鏡山学区ごみ減量学習会	鏡山小学校	ごみに関する講義等
7/15	板橋まつり	板橋小学校	発電体験等
7/21	境谷夏まつり	境谷小学校	発電体験等
	夏の夜市	村山公園	発電体験等
7/27	防災と音楽の夕べ	桂東小学校	発電体験等
7/28	夏祭り	修学院第二小学校	発電体験等
8/4	桃山地域女性会スクール21学習会②「エコ料理でガス代を節約しよう」	京エコロジーセンター	省エネに関する講義等
	エコサマーフェスタ	元梅庭中学校	発電体験等
	中立ふれあい広場	新町小学校	省エネに関する講義等
	上賀茂夏まつり	上賀茂小学校	発電体験等
8/5	久多夏の里山まつり	久多の里自然環境活用センター	発電体験等
	夏祭り	嵐山小学校	発電体験等
8/19	柘野地区 北葵野町地蔵盆祭り	北葵野町	省エネに関する講義等
8/25	待鳳まつり	待鳳小学校	省エネに関する講義等
9/1	桃山地域女性会スクール21学習会③	桃山会館	省エネに関する講義等
9/2	桃山地域女性会学習会「エコクッキングでガス代を節約しよう」	京エコロジーセンター	省エネに関する講義等
9/8	元町ふれあい土曜塾「のこさずたべてね」	元町小学校ふれあいサロン	省エネに関する講義等
9/15	ふれあいまつり	下鴨小学校	発電体験等
9/17	森のようちえん どんご園	宝が池公園 憩いの森広場	発電体験等
9/23	ふれあいまつり	朱雀第三小学校	省エネに関する講義等
10/2	くらしの匠「説明会」	朱雀第三自治連合会館	省エネに関する講義等
10/5	伏見エコライフプロジェクト「伏見えこな人図鑑」取材協力	京エコロジーセンター	環境ボランティアに対する取材
10/6	桃山地域女性会スクール21学習会④「省エネの取組報告」	桃山会館	省エネに関する講義等
10/7	スポーツフェスティバル	池田小学校	発電体験等
10/16	くらしの匠「第1回集会」	朱雀第三自治連合会館	省エネに関する講義等
10/20	上高野ふれあいまつり	上高野小学校	発電体験等
10/27	御所南コミュニティ環境部会	御所南小学校	省エネに関する講義等
10/28	桂坂ふれあいまつり	桂坂小学校	発電体験等
	ふれあいまつり	西野小学校	発電体験等
10/31	くらしの匠「説明会」	京都市上鳥羽北部いきいき市民活動センター	省エネに関する講義等
11/3	アイビーフェスタ	成徳学舎(元成徳中学)	発電体験等
11/4	朱二ふれあいまつり	朱雀第二小学校	発電体験等
	朱七こどもフェスティバル	朱雀第七小学校	発電体験等



上鳥羽学区(南区)での省エネ体験型連続学習会「くらしの匠」の様子(10月31日)

日程	名称	会場	内容
11/7	くらしの匠「第1回集会」	京都市上鳥羽北部いきいき市民活動センター	省エネに関する講義等
11/8	くらしの匠「第3回集会」	朱雀第三自治連合会館	省エネに関する講義等
11/10	第2回葵学区親子まつり	葵小学校	省エネに関する講義等
11/11	防災訓練	元新洞小学校	防災に関する講義等
	西院ふれあいまつり	西院中学校	省エネに関する講義等
11/14	くらしの匠「第2回集会」	京都市上鳥羽北部いきいき市民活動センター	省エネに関する講義等
11/17	親子の秋のつどい	伏見板橋小学校	発電体験等
11/23	深草100円商店街	深草小学校	発電体験等
12/2	歳末広場	御所南小学校	発電体験等
12/5	くらしの匠「第3回集会」	京都市上鳥羽北部いきいき市民活動センター	省エネに関する講義等
12/9	各種団体役員会	羽束師小学校	防災に関する講義等
12/16	大將軍まつり(ふれあいもちつき大会)	大將軍小学校	おもちゃの交換会
12/23	餅つき大会	稚松公園体育館	発電体験等
1/6	消防団初出式	北白川小学校	発電体験等
1/13	北風と遊ぼう	京都市立桃山小学校	発電体験等
1/16	くらしの匠「説明会」	乾隆小学校	省エネに関する講義等
1/20	新春もちつき大会	京都まなびの街 生き方探究館	発電体験等
1/26	餅つき大会	養徳小学校	発電体験等
1/27	冬の格致区民ふれあい広場	下京雅小学校	発電体験等
1/30	くらしの匠「第1回集会」	乾隆小学校	省エネに関する講義等
2/7	くらしの匠「説明会」	醒泉会館	省エネに関する講義等
2/9	もちつき大会	新林小学校	発電体験等
2/13	くらしの匠「第2回集会」	乾隆小学校	省エネに関する講義等
2/18	くらしの匠「第1回集会」	醒泉会館	省エネに関する講義等
2/21	家庭の省エネに関する学習会	日影学区自治会館	省エネに関する講義等
3/4	くらしの匠「第2回集会」	醒泉会館	省エネに関する講義等
3/13	くらしの匠「第3回集会」	乾隆小学校	省エネに関する講義等
3/18	くらしの匠「第3回集会」	醒泉会館	省エネに関する講義等



「えこそらキッズ」は、抽選で選ばれた小学1~4年生とその家族を対象に、屋上の田畑やビオトープで1年間の継続プログラムを実施。2018年度は45名を対象に、種まきから収穫、そしてクッキングまで計15回実施しました



祇園祭ごみゼロ大作戦2018 ボランティアリーダー研修会(5月19日)

2018年度、地域コミュニティと連携して、京都市内の学区に、ボランティアのべ183名を派遣して、プーラス出展や学習会等の環境啓発プログラムを行いました。

また、教育機関と連携して、京都市教育委員会が実施する「生き方探求・チャレンジ体験」推進事業において、桃陵中学校の生徒2名の職場体験を受け入れました。

その他に、(一財) 祇園祭ごみゼロ大作戦が主催する「祇園祭ごみゼロ大作戦2018 ボランティアリーダー研修会」で、大学生40名を対象に、ボランティアリーダーとしての心構えやグループプロセスについての研修を行いました。

1146 各種団体との連携事業

環境ボランティアを経て 学ぶ側から教える側に



京エコサポーター 今西佳子さん

元々山登りが好きで、「自然を守りたい、環境について知りたい」という気持ちから、市民しんぶんに乗っていた環境ボランティア「エコメイト」に応募しました。個人的な仲間たちと楽しく活動しながら、もっと掘り下げて勉強したいと思い、「3R・低炭素社会検定」を受けたり、3年間のエコメイト任期終了後は、環境学習のサポーターを務めるようになりました。

わかりやすく説明するためにクイズをまじえたり、私より詳しい方がいたら「教えてください」とお願いすることもあります。新たな学びが楽しく、ボランティアの原動力になっています。子どもに伝えるときは、きちんと説明するように心がけるので、大人に伝えるよりも難しいですね。

今は、食育指導員の勉強をしています。食品ロスのことなど、食と環境の問題などについても、お話ができるようになりたいと考えています。

パートナーの声

◇エコメイト養成講座

日程	タイトル	人数
第1回	1/6 エコセン・ボランティアきほんのき	20
第2回	1/19 環境問題・エコセンの展示 きほんのき	17
第3回	1/27 環境学習きほんのき	17
第4回	2/9~10 環境学習の場をつくり・まわす きほんのき①②	のべ24
第5回	2/15~16 実習 オリエンテーション	16
実習	2/17~3/9 実習期間	のべ30
第6回	3/11 これまでの講座のふりかえり & 登録説明会	19

◇ボランティア研修

日程	タイトル	人数
第1回	4/14 効果的な伝え方を知ろう ~マナー&コミュニケーション編~	18
第2回	5/19 エコセンの設備を知ろう	22
第3回	6/13 社会見学~ゼロ・エネルギーハウス (ZEH) を知ろう~	40
第4回	8/5 子どもの来館者対応について	22
第5回	10/20 水に関する情報収集	25
第6回	11/17 食に関する情報収集	23
第7回	12/9 ごみに関する情報収集	30
第8回	1/20 地球温暖化に関する最新情報	44

◇マネジメントの会

日程	タイトル	人数
4/1	登録証授与式	25
	エコメイトスタートアップの会	32
7/1	ボランティア全体ミーティング①	33
9/9	エコメイト中間ふりかえりの会	24
12/22	ボランティア全体ミーティング②	28
3/24	エコメイト年間ふりかえりの会	26
	修了証授与式	42



ボランティア全体ミーティングでのグループワークの様子



エコメイト18期生の登録証授与式&スタートアップの会(4月1日)

◇ボランティア企画のイベント

日程	タイトル	実施グループ名	人数
6/17	水みず大作戦~かっこいい水の使い方~	イベントグループ	53
	うちごみ相談所	ワーキンググループ	25
7/24 ~8/27	ボランティア推薦図書 特別展示絵本 & POP	図書グループ	22 貸出数
7/26, 8/2 8/9, 8/16	エコセン☆夏休み ワクワクひろば	イベントグループ	230
8/10	うちごみ相談所	ワーキンググループ	37
8/12	ペットボトルで マイ風力発電機を作ろう	エコエネクラブ	81
9/15	昔と今のおやつを 考えよう~	♪エコロジーカフェ♪ の会	7
10/9 ~11/26	読書週間 POP 展	図書グループ	3 貸出数
11/3	うちごみ相談所	ワーキンググループ	21
12/16	ペットボトルでマイエコライトを作ろう!~クリスマスバージョン 2018~	エコエネクラブ	37
1/12	"お茶"を飲みくらべて みよう!	♪エコロジーカフェ♪ の会	7
1/19	エコ紙芝居 ~プラごみを考えよう	イベントグループ	32
2/16	うちごみ相談所	ワーキンググループ	42



エコセンの大きな特徴である環境ボランティア「エコメイト」。開館以来、案内ガイド活動を担っている



「青少年のための科学の祭典」に、ブース出展(11月11日、12日)

新規エコメイト養成講座の一環で、ガイドの実習を行う様子

市民目線の展示解説が魅力(ボランティアとの協働)

1147 環境ボランティアの育成

エコセンの大きな特徴は、環境ボランティア「エコメイト」の存在。館内の展示の解説や、自主企画の実施等を行うエコメイトを、毎年募集し、養成講座を実施しています。エコメイトの任期は3年間で、任期終了後は「京エコサポーター」として、エコメイトのサポートやイベント・地域コミュニティでの出展等で活動します。

2018年度は、新聞等で広報しエコメイトを募集。応募者に対して養成講座を実施し、20名が新規エコメイトとして登録しました。

エコメイト・京エコサポーターの日常的な活動コーディネートのほか、研修を年間8回、他にも活動意欲を高めるための場づくりを行い、多くのボランティアがガイド活動に参加しました。ボランティアによる自主企画も、年間13件実施されました。

パートナーの声

来館者の興味を引き出す 館内ガイド活動を



環境ボランティア エコメイト19期生 関口秀樹さん

小学校教員を退職した後、情報誌でエコメイト募集の広告を見かけました。かつて学校の子どもたちと、空き缶リサイクルについて調べ学習に取り組み、環境問題に興味を持っていたので、応募してみました。

養成講座に通い始めて驚いたのは、「ボランティアなのにこんなに勉強するのか!」ということ。ボランティアとは何かということから、コミュニケーションの実習まで、みっちり学ぶことがあります。先輩や仲間たちはバイタリティあふれる人が多く、自分の生活スタイルに合わせ活動を楽しんでいて、いつも刺激を受けています。

館内ガイド活動では、来館者とやりとりしながら、相手に関心を持ってもらうよう話をするのがとても楽しいです。来館者の興味を引き出し、行動につなげてもらうよう、自分なりに工夫を重ねていきたいと思っています。



大学生インターンが子ども向けプログラムの進行をしている様子



「環境活動パワーアップ講座」で、環境活動とSDGsをテーマに講義を受けている様子。講師から、環境活動に生かしていく方法を学んだ

連続講座で担い手を育成

市民対象の連続講座を主催



「自然エネルギー学校・京都」で、自然エネルギー普及における電力系統の課題について学んでいる様子

「環境活動パワーアップ講座」で、参加者たちが、自分の持つ「リソース」について考え、発表しあった

1148 環境保全活動に関わる人材の育成

エコセンでは、市民を対象に、環境活動に取り組む人材として必要な専門性の獲得を目指す連続講座を実施しています。

「自然エネルギー学校・京都2018」では、自然エネルギーの普及・啓発を目指し企画し実践する人材を養成するため、国内外の現状や事例について学べる連続講座(全5回)を開催しました。

「環境活動パワーアップ講座」では、環境活動の企画・運営・実践と、協力者との関係づくりとコーディネート力までを体系立てて学ぶことができる連続講座(全5回)を開催しました。

エコメイト修了生に対しては、地域の環境活動リーダーとして必要な「環境問題に対する理解」「地域に対する理解」「コミュニケーション力」について、情報提供(年6回)を行いました。

多文化・多世代とつながる外国人来館者・大学生

1149 海外との交流

2018年度の海外からの団体見学は、30団体580人で、55ヶ国から受入れました。(第1四半期/9団体166人、第2四半期/6団体78人、第3四半期/10団体158人、第4四半期/5団体178人)

また、図書コーナーに、英語・中国語・韓国語・ポルトガル語の4カ国の外国語資料を設置しました。主な内容は地球温暖化・環境教育・廃棄物・生物多様性等です。引き続き、これまで国際事業等で関わりのあった関係者から情報を収集し、必要に応じて資料を充実していく予定です。



図書コーナーに設けられた外国語資料コーナー

1150 大学生の環境活動支援



ESDユース・ネットワーク作業部会での検討の様子

エコセンでは、大学生の環境活動を支援として、大学生が環境活動を始める仕組みの整備に取り組んでいます。

2018年度は、エコセンを大学生の環境活動の拠点施設として機能させるための仕組みを検討するため、「ESDユース・ネットワーク作業部会」を設置し、全7回を実施しました。この作業部会での協議を基に、次年度からのエコセンにおける大学生の活動支援を進めていきます。

エコを切り口に地域力アップ 地域環境活動支援事業



【銅駝学区「ライトダウンでホテル鑑賞」】高瀬川ホテルの夕べで、CO2削減のためライトダウンを実施



【竹田学区「竹田『節電所』】地域の自治会館の照明をLEDに改修している様子

【久我学区「高齢者の居場所づくり×エコ」】グリーンカーテンとして育てた洗いもを、「男の料理教室」で調理している様子

1301 エコ学区に係る 学習会等支援業務

京都市と協働し、元学区を単位とする222の地域コミュニティでエコ活動を推進することにより、環境にやさしいライフスタイルへの転換と、家庭部門での温室効果ガス排出量削減を、地域ぐるみで実現・定着することを目指しています。

当協会では、エコセンに「エコ学区サポートセンター」を開設し、エコ活動のワンストップ相談窓口として学区を支援しました。2018年度は年間で計1547回、学区へのヒアリング・取材・打ち合わせ等を行い（前年度比107%）、地域に根差したエコ活動を促進するための各種取組・学習会・ブース出展等を実施することができました。

エコで地域を活性化

地域へのヒアリングや現場取材から、地域が悩まれている課題改善とエコを

融合した提案を行い、様々な支援プログラムでエコ活動を促進できました。

●京エコライフプログラム

子どもたちと地域住民のつながりを重視し、家庭でエコライフが定着するように努め、3学区で実施できました。

○銅駝学区（中京区）

「ライトダウンでホテル鑑賞」

住んでよかった銅駝学区を目指して、高瀬川を京都市内外に自慢できる場所にするため、ホテル自生の取組を行いました。小学校で飼育したホテルを放虫しライトダウン観賞会を催すことで、CO₂を1トン以上削減しています。

○久我学区（伏見区）

「高齢者の居場所づくり×エコ」

小学校と自治連合会館で同時に「洗いも」のグリーンカーテンに取り組み、猛暑でしたが夏の電気使用量を削減することができました。秋には、収穫した洗いも料理を楽しまれました。

○竹田学区（伏見区）

「竹田『節電所』」

地域の拠点である自治会館で、施設の照明をLEDに改修する等の省エネ

に取り組み、連続学習会を通じて、学区の皆さんにエコライフについて考えていただきました。

●エコ学区ステップアッププログラム

各学区の課題に絡めて、地域ぐるみのエコ活動を促進・定着させるよう、支援を行いました。5学区で実施することができました。

○元町学区（北区）

「食×エコ」

食材のエコな使い方や、食品の廃棄を減らすフードドライブを実施することで、CO₂削減に取り組みました。

○豊園学区（下京区）

「レッツ・エコチャレンジ」

エコな料理づくりを考え実践し、CO₂削減に取り組みました。また、子ども向けのエコ手づくり教室が、地域に定着してきています。

○今熊野学区（東山区）

「フリーフリーマーケット」

使わなくなった道具を学区内で循環させ、住民



【元町学区「食×エコ」】運動会に合わせ余った食品を回収する「フードドライブ」を実施



【豊園学区「レッツ・エコチャレンジ」】子ども向け「リメイクうちわワークショップ」の様子



【鷹峯学区「省エネ・快適生活サポート」】高齢者施設でヒートショック予防学習会を実施



【桃山学区「エコ×子育て×防災」】ロケットストーブを使い、防災調理イベントを開催



【今熊野学区「フリーフリーマーケット」】使わなくなった道具を持ち寄り、住民同士が交流



第1回エコ学区担い手セミナー(2月7日)では、同志社大学生が京極学区の防災訓練に参加した事例を紹介

講師・木原浩貴氏(京都府地球温暖化防止活動推進センター) 16名参加

「災害から地域を守るエコロジー」

○3月14日 第3回

市原野学区 18名参加

「地域を支える持続可能なエネルギー」

○2月21日 第2回

同同志社大学新川ゼミ×京極学区

「未来の担い手を巻き込むエコ活動」

○2月7日 第1回

同志社大学政策学部教授をモデレーターに迎え、計3回実施しました。

地域で率先してエコ活動を実行できる担い手づくりを、エコ学区の事例を通して学ぶ連続セミナー。新川達郎同志社大学政策学部教授をモデレーターに迎え、計3回実施しました。

●「エコ学区担い手セミナー」の実施

1302
市民協働発電制度地域コミュニティ版
再生可能エネルギー
導入支援

京都市は、地域コミュニティが主体となった再生可能エネルギー利用設備の普及拡大を目指しています。サポートセンターは、地域における再生可能エネルギー発電について、当該学区にコーディネーターや専門家を派遣し、学習会・調査・事業化検討を実施。2018年度は、久我学区(伏見区)・銅駝学区(中京区)・上高野学区(左京区)・市原野学区(同)・八瀬学区(同)・菊浜学区(下京区)・中川学区(北区)の7地域で支援を行いました。



上高野学区(左京区)で水車や水路を实地調査し、非常用電源として小水力発電を利用するための課題を検証した



【ブース型学習会】梅運学区(下京区)の芋ほりイベントで、旬の食材ワークショップを実施(11月23日)



【学習会】鏡山学区自治会館(山科区)でのごみ減量学習会の様子(6月22日)



【地域イベントへのブース出展】お祭りや防災訓練等に楽しく学べるブースを出展。右は板橋学区(伏見区)での発電体験(7月15日)、左は待鳳学区(北区)での紙芝居(8月25日)



●「くらしの匠く省エネ実感生活」
家庭の電気使用量を見える化し、学習会でエコ生活を提案して、その効果を感じてもらう取組を実践いたしました。

- ・朱雀第三学区(中京区) 6世帯
- ・上鳥羽学区(南区) 9世帯
- ・乾隆学区(上京区) 8世帯
- ・醒泉学区(下京区) 6世帯

●学区における学習会の開催

「家庭でできる省エネ」「ごみ減量」「エコと防災」等様々なテーマで、自治会館・小学校・児童館等を会場とした学習会を20学区、イベント等でのブース型学習会を20学区で開催し、計3212名(大人1100名・子ども2112名)に実施することができました。

●学区のお祭り等でのブース出展

「発電体験」「省エネ相談所」「エコと防災」等のブース出展を20学区で開催し、計2731名(大人657名・子ども2074名)に実施することができました。

パートナーの声



桃山エコ推進委員会委員長 大倉正揮さん

桃山エコの5年～エコ学区のうち・そと～

私たち伏見の桃山エコ推進委員会は、桃山学区の「エコ学区宣言」後、地域の担い手として発足し、現在5年目を迎えています。桃山エコの強みは、草の根環境活動を重視していることです。学区内の自治会・町会から「エコ委員」を選出いただき、各戸回覧の連絡網をつくっています。そして、年一回の総会と、月一回の役員会を、欠かさず開いてきました。

この基盤の上に、エコ学区サポートセンターほか種々の環境団体から、また、学区を越えたエコセンボランティアや個人有志、他のエコ学区からも、助力と支援、励ましをいただいています。桃山エコは、エコ学区でありながら「エコ学区のうち・そと」の垣根を出来るだけ低くして、「ごみ減量」「エコ×防災」「環境

●「エコ学区からんぼん」の発行
地域のエコ活動を紹介する「エコ学区からんぼん」を年2回発行いたしました。(第11号・第12号)



エコ学区からんぼん11号・12号



平成30年度(第16回)京都環境賞で、エコ学区活動が表彰された

教育」などのテーマに取り組んでいます。具体的には、グリーンカーテンの普及のためゴーヤの苗の配布会を行ったり、地元の小学校や児童館で出前授業を実施したり、家庭ごみを減らすために住民対象の生ごみ堆肥づくりの講習会を行ったり、地域のお祭り・PTA行事・総合防災訓練などにロケットストーブを出展したりしています。木質ごみを減らしカーボンニュートラルの取組でもあるロケットストーブは、他学区からも注目され、近年ではロケットストーブ製作の講師役として市内各地に赴く機会も増えました。エコ学区同士で交流できることは、私たちにとっても大きな刺激であり、励みになっています。

こうした「多世代・子育て・PTA・若者」などをキーワードに、人の輪とつながる実践が認められ、2018年度の京都環境賞特別賞(エコ学区賞)を受賞することができました。気候の危機が切迫する事態のなかで、地域での実践は今後どうあるべきか、重い課題です。しかし、今後も「楽しんで」挑戦を続けていきたいと思っています。

京都モデルを生かし海外の人材育成

国際事業

JICA 課題別研修 1201 「廃棄物管理能力向上」 (応用・計画・政策編)

本研修は、海外で廃棄物管理に関わる行政職員に、2カ月にわたって訪日研修を実施するものです。廃棄物管理や政策に関わる講義や視察を行うだけでなく、市民参画による廃棄物減量や分別への協力をどのように得るのかという視点で、研修の企画から実施までを行っています。

講義・施設等見学・ワークショップからアクションプラン作成

2018年度は、8/30～10/19の間、3ヶ国から行政等職員7名(アンゴラ1名、ブラジル3名、モザンビーク3名)を受入れました。

- 【1週目】日本及び研修全体について
- JICA 関西でオリエンテーション
- 京都大・エコセン・同志社大で講義「環境と経済」「地球環境問題総論」
- 「日本の地方自治体・地方行政」
- 滋賀県内で講義「あいとう町菜の花プロジェクト」
- 「滋賀グリーン購入ネットワークの取組/滋賀県のグリーン調達」
- 滋賀県内で見学「あいとうエコプラザ」「滋賀県庁調達室」
- 京都市子どもエコライフチャレンジ
- 【7週目】市民参画と環境教育
- エコセンで講義「市民参画の仕組みづくり」
- 「市民ボランティア育成とマネジメント」
- 「環境教育概論」「体験学習概論」
- エコセンで実習「プログラム企画」
- 【8週目】アクションプラン作成
- JICA 関西でアクションプラン作成・発表



京都市の最終処分場である「エコランド音羽の杜(東部山間埋立処分地)」で解説を聞く海外からの研修員たち



京エコロジーセンター館内案内の様子

高月紘 京都大学名誉教授(当協会理事長)による「地球環境問題総論」の講義

【2週目】課題分析と研修目標設定

○エコセン見学

○目標設定・課題分析ワークショップ

【3週目】日本・京都の廃棄物管理・処理

○エコセンで講義

「廃棄物管理・処理の歴史」

「日本・京都の廃棄物処理」

「廃棄物の実態把握と管理計画」

○京都市施設見学

「魚アライサイクルセンター」

「南部資源リサイクルセンター」

「BDF製造施設」

「北部クリーンセンター」

「最終埋立処分地「エコランド音羽の杜」

「山科まち美化事務所」

「醍醐エコまちステーション」

【4週目】衛生的な埋立・コンポスト

技術等

○広島市で見学

「平和記念公園」「平和記念資料館」

○福岡市で講義

「福岡方式を中心とした衛生的な廃棄物立技術について」

○北九州市で講義

「公害・環境問題克服の取組の歴史」

○北九州市施設見学

「環境ミュージアム」

「北九州エコタウン(OA機器・自動車リサイクル・福岡大学実証研究施設)」

○福岡市施設見学「西部(中田)埋立場」

「福岡市西部水処理センター」

○北九州市で講義・実習

「生ごみ処理(高倉式コンポスト)」

【5週目】民間企業の廃棄物管理・処理

○エコセンで実習

「アクションプラン中間意見交換会」

○兵庫県内・京都府内で講義・見学

「(株)神戸ポートリサイクル」

「大栄環境(株)三木リサイクルセンター」

「パナソニックエコテクノロジーセンター(株)」

「城南衛生管理組合」

「(株)京都環境保全公社」

「(株)山本清掃」「(株)月桂冠」

【6週目】コミュニティの取組

○エコセンで講義

「環境マネジメントシステムKES」

「京都市ごみ減量推進会議の地域における取組」「循環型社会の構築」「グリーン購入・グリーンコンシューマー」

「京都市子どもエコライフチャレンジ」



環境教育プログラムを立案し、発表を行う様子



2ヶ月の研修の集大成として、アクションプランを発表



松藤康司福岡大学名誉教授から、低コストで衛生的に廃棄物を埋め立て、浸出水の管理・処理を行う技術「福岡方式」を学ぶ研修員たち



マレーシアから来日した生徒たちのプレゼンテーション



京都市でのシンポジウム「SDGs でつながる京都とイスカンダル・マレーシア」



京都市でのシンポジウムの会場の様子

現地と京都市でシンポジウム開催

プロジェクトの最終年となる2018年度は、イスカンダル・マレーシア現地及び京都市内で、それぞれ最終成果報告会（シンポジウム）を開催しました。

現地シンポジウムでは、当協会の担当職員が登壇し、関連イベントを含め約700名が参加しました。

京都市でのシンポジウムには125名が参加。関係団体が取組内容と成果を報告し、現地セカンダリースクールの生徒も学習の様子を発表しました。



安朱小の児童たちがタブレットを持って、マレーシアの皆さんを、環境をテーマにした安朱ツアーへと案内した



マレーシアのジョホール州から、プライ小学校の皆さんが来日し、京都市立安朱小学校（山科区）の児童と交流



11月にマレーシアで開催された現地シンポジウムに、当協会の職員が登壇して報告を行った



マレーシアの現地セカンダリースクールにおける問題解決型授業の様子

1202

JICA草の根技術協力事業

低炭素社会実現に向けた人・コミュニティづくりプロジェクト（マレーシア）

当協会では、2016年から2018年までの3ヶ年計画で、マレーシア・イスカンダル地域で、京都市のノウハウを生かした低炭素社会づくりプロジェクトを実施してきました。

マレーシアでひろがる京都市発の環境教育

①ではプロジェクト対象地のイスカンダル地域の全小学校231校にとどまらず、ジョホール州全体で400校を超える学校が既に取組を開始しており、次のステップとしてジョホール州全小学校（約900校）での実施がターゲットとして設定されています。また京都市の全小学校で行われている「子どもエコライフチャレンジ」と同様に、事前学習と事後学習の両方を行う発展版のプログラムを、延べ60校で実施することができました。

内容は、①小学校でのエコライフチャレンジプログラム、②セカンダリースクールでの課題解決型環境教育プログラムの作成とモデル校での実施

③地域コミュニティを巻き込んだ環境活動の実施の3本柱です。2018年度は、これらのプロジェクトの最終年度、まとめの1年でした。

②では12校をモデル校として、継続的なプログラム実施の為に教員向け研修を行い、3ヶ年で延べ126名が研修を受講し、それぞれの学校で取組を進めています。

③では3つのモデルコミュニティにおいて、学校を中心としながら、地域住民を巻き込んだ環境活動が行われました。それらのモデルとなる取組を活動事例集としてまとめ、学校や地域コミュニティに配布し、それにより広がる広がり期待されます。

また、3ヶ年で延べ57名の訪日研修受入、延べ57名の専門家現地派遣を行いました。

このプロジェクトをきっかけに、京都市立安朱小学校とジョホール州のプライ小学校が姉妹校提携を結び、交流

を続けています。

本プロジェクトで築いてきた関係と活動基盤を、今後さらに強化し、発展的な活動を行っていくための第2フェーズについて、現地関係者と協議を進めています。

パートナーの声



Iskanandar Malaysia 地域開発庁 Head.Environment
ポイト・ディオニシウス・ジョーマンさん

エコセンをモデルにした環境施設を

私たちは「低炭素社会実現に向けた人・コミュニティづくりプロジェクト」に参画できたことを大変誇りに感じます。このプロジェクトは、京都市と協会と気候ネットワークが、イスカンダル地域開発庁、マレーシア工科大学、ジョホール州教育局等と連携し、JICA草の根技術協力プロジェクトとして、2016年から2018年にかけて実施されました。環境活動を地域に広め、人づくりを進展させるという

目的を、ともに達成できてうれしいです。協会職員が、日本だけではなく他国にも環境活動を展開していることに、大変感銘を受けました。エコセンは日本の環境教育の拠点施設であり、協会の素晴らしい取組は、イスカンダル地域開発庁とイスカンダル・マレーシアの見本となる存在です。

イスカンダル地域開発庁は、協会とこちらの現地パートナー、特にジョホールバル市役所との協力関係をさらに強め、エコセンをモデルにした環境エコロジーセンターを設立したいと考えています。特にコンテンツ開発、能力形成、技術と知識の移転などにおいて、ヒントを得られるのは大変幸運です。私たちは今後も京都市及び協会との協働を続けていきたいと思えます。



ボランティアマネジメントの経験を生かし、全国ボランティアコーディネーター研究集会 2019 で分科会を担当(3月2日、3日)

◇学会での発表等実績

日程	事業名	主催
8/18 8/19	日本ESD学会第1回大会への参加とワークショップ(ユース世代とのESD・SDGs推進について)の実施	日本ESD学会
8/25 8/26	日本環境教育学会第29回大会への参加と口頭発表(展示事業に係る実践報告)	日本環境教育学会
2/2 2/3	ワン・ワールド・フェスティバルへの出展	ワンワールドフェスティバル実行委員会
3/2 3/3	全国ボランティアコーディネーター研究集会 2019 での分科会「シニアの心を動かせ!」文化施設が豊かになる「5つのこと」実施	全国ボランティアコーディネーター研究集会 2019 実行委員会、(特非)日本ボランティアコーディネーター協会

◇研究会・実行委員会等への参画実績

日程	事業名	主催
通年	日本環境教育学会プロジェクト研究「学校環境教育プロジェクト」参画	日本環境教育学会プロジェクト研究「学校環境教育プロジェクト」
通年	ボランティアコーディネーション力検定試験委員会への参画	(特非)日本ボランティアコーディネーター協会
5~12月	第23回「青少年のための科学の祭典」京都大会 実行委員会への参画	「青少年のための科学の祭典」京都大会 実行委員会
6~3月	「全国ボランティアコーディネーター研究集会 2019」実行委員会への参画	(特非)日本ボランティアコーディネーター協会、全国ボランティアコーディネーター研究集会 2019 実行委員会

蓄積したノウハウの活用

調査・研究・開発・発信

当協会の組織基盤を固め、持続可能な運営体制を築くため、2018年度外部の専門家を交えた戦略会議を計11回実施。その結果、2019年度は「人材育成タスクチーム」と「ファンドレイジング・コミュニケーションタスクチーム」を編成して、取組を進めていくことになりました。

協会プロモーション・ファンドレイジング

当協会は、2001年の設立以降、施設経営・環境教育・ボランティア育成とマネジメント・NPOや地域活動支援の先進的ノウハウを蓄積してきました。2018年度は上表のとおり学会等で参画・発表をし、取組を発信しました。今後、コンサルティングや資源提供をソーシャル・ビジネス化していくことを視野に入れています。

1501 ノウハウのソーシャル・ビジネス化



(一社)省エネルギーセンターの依頼により、海外からの研修員に講義を提供した(6月22日)

セミナー等へ講師派遣

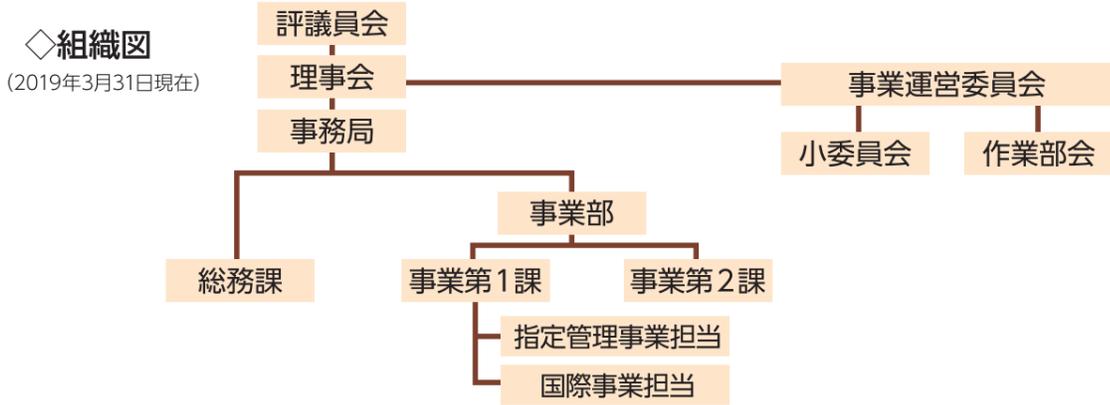
職員が専門性・ノウハウを提供

◇講師派遣実績一覧

日程	事業名	主催
5/23	中都市廃棄物減量化政策研究ワークショップ	龍谷大学 社会科学部研究科
6/22	JICA 課題別研修「エネルギーの高効率利用と省エネの推進(E)」	(一社)省エネルギーセンター
7/16	JICA 草の根技術協力事業「湖南省洞庭湖流域農村水環境改善プロジェクト」にかかる訪日研修	(公財)淡海環境保全財団
7/27	ソーラー工作教室「あしかがクルクルまわるよ」	京都生協北ブロック ぼっごりこみゆにてい
8/18 8/20	平城宮跡解説ボランティア勉強会	奈良文化財研究所
9/15 9/16	ボランティアコーディネーション力検定2級直前研修 ※職員が検定試験委員として参画	(特非)日本ボランティアコーディネーター協会
10/11	JICA 課題別研修「博物館とコミュニティ開発」	国立民族学博物館
10/30	JICA・マレーシア国別研修「LEP2.0行政初級職 人材育成・プロジェクト管理」	(公財)太平洋人材交流センター
12/1	「ESD推進ネットワーク全国フォーラム 2018 分科会」への講師派遣	ESD活動支援センター、文部科学省、環境省ほか
12/5	JICA・マレーシア国別研修「LEP2.0中間管理職のための指導教育」	(公財)太平洋人材交流センター
1/26	「仏教と環境展」トークイベント	京都佛立ミュージアム
3/4	JICA 課題別研修「総合的な廃棄物管理(全般)(B)」	中部リサイクル運動市民の会
3/5	JCL 外国語学院研修	JCL 外国語学院
3/23	イオンチアーズクラブ兵庫京都滋賀奈良地区予選会 ※職員が審査員として参画	イオンリテール(株)近畿カンパニー

1401 講師派遣・講座の企画実施(セミナー・研修・イベント等)
当協会では、外部でのセミナーやシンポジウム等に職員を派遣し、環境教育、環境学習施設運営やボランティアコーディネーション等をテーマとした講演や事例発表を行っています。また、依頼元の要望にあわせた出前講座、セミナーやワークショップの企画実施を通して、他団体による環境活

1501 講師派遣・講座の企画実施(セミナー・研修・イベント等)
2018年度は、左表のとおり、セミナーやシンポジウムに職員を派遣し、環境学習施設運営や市民参画・ボランティアコーディネーションについての講演や事例発表を行いました。また、依頼元の要望にあわせた出前講座やワークショップの企画実施等を通して、他団体による環境活動を支援しました。



◇役員名簿 (敬称略・順不同・2019年3月31日現在)

役職	氏名	所属・役職	役職	氏名	所属・役職
理事長	高月 紘	京都大学 名誉教授	評議員	浅利 美鈴	京都大学 地球環境学堂 准教授
専務理事	浅野 和子	公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 事務局長		市川 智史	滋賀大学 環境総合研究センター 教授
理事	枚本 育生	特定非営利活動法人 環境市民 代表理事		中田 富士男	京都市ごみ減量推進会議 理事
	田浦 健朗	特定非営利活動法人 気候ネットワーク 事務局長		永橋 爲介	立命館大学 産業社会学部 教授
	橋本 直子	株式会社 Hibana 代表取締役		長屋 博久	有限会社 村田堂 取締役
	花田 眞理子	大阪産業大学 大学院 人間環境学 研究科 教授		原 強	京都循環経済研究所 所長
	久山 喜久雄	フィールドソサイエティ 代表		糸 善子	有限会社 思風都 代表取締役会長
	新川 達郎	同志社大学 大学院 総合政策学 研究科 教授 政策学部 教授		周 瑋生	立命館大学 政策科学部 教授
監事	山中 かつお	京都市環境政策局 地球温暖化対策室 担当部長		田中 克	京都大学 名誉教授
	野村 克章	税理士		山元 新司	株式会社 京都銀行 公務・地域連携部 地域活性化室長
	村中 俊文	京都市環境政策局 環境企画部長		南山 泰宏	京都教育大学 環境教育実践センター 教授
				森元 正純	京都市環境政策局 地球温暖化対策室長

◇事業運営委員名簿 (敬称略・順不同・2019年3月31日現在)

氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
赤塚 太朗	京都市環境政策局 地球温暖化対策室	田浦 健朗	特定非営利活動法人 気候ネットワーク	西山 尚幸	特定非営利活動法人 コンシューマーズ 京都
荒川 佳夫	京エコロジーセンター 環境ボランティア (京エコサポーター)	高月 紘	公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会	原 強	京都循環経済研究所
伊東 真吾	一般社団法人 市民エネルギー 京都	高野 拓樹	京都光華女子大学 キャリア形成学部	東山 和之	京都市環境政策局 循環型社会推進部 ごみ減量推進課
井上 和彦	京のアジェンダ 21 フォーラム	中尾 雅幸	宝ホールディングス株式会社 環境広報部	久山 喜久雄	フィールドソサイエティ
木原 浩貴	京都府地球温暖化防止活動推進センター	中田 富士男	京都市ごみ減量推進会議	福島 布子	京都市地域女性連合会
小谷 真理	同志社大学 政策学部	長畑 和典	特定非営利活動法人 KES 環境機構	藤野 正弘	特定非営利活動法人 きょうとグリーンファンド
枚本 育生	特定非営利活動法人 環境市民	長屋 博久	有限会社 村田堂	守屋 ひとみ	京エコロジーセンター 環境ボランティア (京エコサポーター)

◇ESDユース・ネットワーク作業部会委員名簿 (敬称略・50音順・2019年3月31日現在)

氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
赤澤 清孝	特定非営利活動法人 ユースビジョン	井上 和彦	京のアジェンダ 21 フォーラム	小川 博子	京都市環境政策局 環境企画部 環境総務課
浅利 美鈴	京都大学 大学院 地球環境学 学	上田 隼也	立命館大学 生命科学部 学生	三木 俊和	有限責任事業組合 まちとこ と総合研究所

◇職員数 (2019年3月31日現在)

総務課							事業部									合計
理事長	専務理事	事務局長	課長	課長補佐	事務職員	再雇用職員	小計	部長	課長	課長補佐	事業職員	事務職員	研修職員	臨時職員	小計	
1	1	(1)	1	0	3	1	5	1	3(1)	1	11	1	2	5	23	

*事務局長は、専務理事が事務取扱としている。また、事業課長のうち1名は、事業部長が事務取扱としている。事務取扱対象者は、() で表示している。

パートナーの声



株式会社 Hibana 代表取締役 松田 直子さん

学生時代に京都で COP3 (気候変動枠組条約第3回締約国会議) がありました。熱帯林問題をきっかけに日本の林業や環境問題に関心を持ち、環境政

パートナーの声



京都市環境政策局 地球環境・エネルギー担当局長 下間 健之さん

「私たちはこの地球を祖先から譲り受けたのではない。未来の子供たちから借りているのだ」というネイティブアメリカ

豊かな地球環境を未来の子供たちにお返しするために

の言葉があります。私たちは、未来の子供たちに持続可能で豊かな地球環境をお返しできるのかどうか、今その瀬戸際に立っているといっても過言ではありません。京都市環境審議会への門川市長の諮問文(令和元年7月)より、京都市では今、高月理事長、新川京のアジェンダ21フォーラ

△事業運営委員長をはじめ幅広い方々とともに発表した「1.5℃を目指す京都アピール」に掲げた「2050年CO₂排出量正味ゼロ」を実現するための道筋を、市民・事業者の皆様と一緒に作り上げていこうとしています。千年を超えて自然と共生し生活文化を磨きながら市民の力で発展を続けてきた私たちのまち京都。そんな京都だからこそ、「京都議定書」や「パリ協定」の実行を支える「IPCC 京都ガイドライン」の誕生の地

となったのではと感じます。「2050年ゼロ」…はるかに高い目標に見えますが、世界が目指す方向と、自分たちの生活を豊かにすることが結びついていることに、いつも気付かせてもらえるのが協会だと思っています。かけがえのないパートナー、協会の皆様と手を携えて、世界の中での京都の役割を果たし、未来の子供たちに豊かな地球をお返しできるように、私どもも最善を尽くしてまいります。

策の勉強をしていた時に、京のアジェンダ21フォーラムの交通ワーキンググループのアシスタントをさせて頂きました。社会実験が次々と生まれ、時には衝突しつつ、利害調整の難しさも感じつつ、夜な夜な大人達の対話や白熱した議論に興奮したこと、パートナーシップとは何かを考えたことを、今も覚えています。今や京都会議ではなく、パリ協定に時代がうつっています。

協会の中長期計画策定などに関わらせていただき、何度も議論を重ねて、協会のミッションは「持続可能な地域社会を築くための活動に参加・参画する人を増やし、人と人、様々な団体をつなげる。」にまともになりました。この短い一文の中に、3回も「人」が出てくるように、人づくりが大きな使命であると感じています。

もちろんエコセンの来館者数や協会のクライアントが増えることも大事ですが、具体的には、環境ボランティア等の人材育成、地域社会やいろんな団体との連携で個人や団体の活動を広げること、と書かれています。活動の場ではなく、活動の輪を広げることです。このミッションを、自分ごと、組織ごと、地域ごとに落とし込んでいくことの難しさはあります。関係者が集い、対話する場、応援していただく仕掛けも必要だと思えます。

会「京のアジェンダ21フォーラム」京都市ごみ減量推進会議の3組織が統合します。気候変動、災害大国、少子高齢化、未来が予測できない今だからこそ、船頭多くして船山に登ることにならないような舵取りと、それぞれの強みを活かして、新しい枠組みづくりに向けて、挑戦をしてほしいと願っています。



「1.5℃を目指す京都アピール」全文



京都市環境審議会への市長の諮問文



◇統合の経緯、目的、統合による期待効果

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会の機能を充実させ、環境に配慮した市民の自主的な行動による地域社会づくりに寄与する取組を着実に実施するため、2019（平成 31）年 4 月 1 日を目的に、長年にわたり京都市内を中心として環境保全活動をリードしてきた京都市ごみ減量推進会議、京のアジェンダ 21 フォーラムとの団体統合を進めて参りました。

団体統合により、新たな視点での幅広い取組の創出を可能とし、取組を確実に実施できる組織力（財政基盤等）の強化を図ります。

◇京都市ごみ減量推進会議の歩み

京都市ごみ減量推進会議は、1995（平成 7）年の京都市廃棄物減量等推進審議会の答申の中で、「行政主導だけではなく、市民・事業者・行政の 3 者の協働によるごみ減量の取組が必要」との考えが示され、翌 1996（平成 8）年に発足しました。これまでに再生紙推進事業、秘密書類リサイクル、企業

向け・市民向けごみ減量講座、フリーマーケットなど多岐に渡る活動を実施。目まぐるしく変遷するごみ事情や環境法令に関する最新情報を、わかりやすく市民・事業者提供しています。

そして、全国的にも類を見ないのが、京都市内に 200 以上ある「地域ごみ減量推進会議」の存在。京都の小学校区を基本とした地域で住民が主体となって発足し、各地域の特性に合った方法で、古紙集団回収・使用済み天ぷら油回収等のリサイクル活動や、学習会やごみ処理施設見学会への参加、環境イベントの実施等に取り組んでいます。子どもたちの未来を守るために、家庭や地域で声を掛け合い、



【京都市ごみ減量推進会議の活動】多くの参加者でにぎわう岡崎フリーマーケットの様子



【京のアジェンダ 21 フォーラムの活動】京都の複数企業が連携し、小学校で環境出前授業を実施

ごみ減量の 2R（リデュース・リユース）の輪を広げる地道な取組は、「Think globally, act locally（地球規模で考え、地域で行動する）」を体現しているといえます。

◇京のアジェンダ 21 フォーラムの歩み

1992 年ブラジルのリオデジャネイロで開かれた地球サミット（国連環境開発会議）で合意された、21 世紀に向けた持続可能な開発のための人類の行動計画「アジェンダ 21」。この計画は、地方公共団体に、地域住民との意見交換を行い「ローカルアジェンダ 21」を策定することを求めていました。京都市は 1997（平成 9）年に「京のアジェンダ 21」を定め、翌 1998（平成 10）年に、それを市民・事業者・行政のパートナーシップで推進するための組織「京のアジェンダ 21 フォーラム」を設立しました。

以来、産官学および市民が協力しあってワーキンググループ活動を展開し、環境マネジメントシステム「KES」、家電製品への省エネルギーラベル表示、お祭りへのリユース食器導入等、全国のモデルともなる先駆的な取組を実践して来ました。現在は、京都の小学校区を基本とした地域で、地域の事業者・学校・住民などの各主体が協力して環境問題に取り組む「京都環境コミュニティ活動（KESC）」、京都市内の企業や学校が取り組む KES に、生物多様性

に関する活動を取り入れネットワーク化する「KES エコロジカルネットワーク」等を行っています。

◇協会のこれからの取り組み

以上のように当協会と統合する両団体は、「ごみ減量」「再生可能エネルギー」等についての専門性を有し、京都市を含む多様なステークホルダーと対等な関係によるパートナーシップのもと、多くの市民・団体会員の声を拾い、自由な発想で事業を展開されてきました。

今後は、京都市ごみ減量推進会議が持つ「長年にわたる地域での実績・ネットワーク」や、京のアジェンダ 21 フォーラムが持つ 3 つの機能（プラットフォーム・社会実験・政策提言）等、これまでの協会が持ち得ていなかった両団体の強みを活かし、新たな拠点として京都市南部クリーンセンター第二工場の環境学習施設の運営や、地域でのごみ減量活動・企業との連携等を充実させるとともに、SDGs や国際事業の強化などにも取り組んでいきます。

また、統合後 3 年を目的に、各団体の持ち味を活かし「京都を中心とした環境保全活動をエンパワメントし、全国に社会的インパクトを与える存在」かつ、「持続可能な組織」となるべく、段階を踏んだ経営改善を行って参ります。



— 協会が目指すもの —

環境に配慮した 市民の自主的な行動による 地域社会づくりに寄与すること。

そのための
ミッション・ビジョンに
基づく事業取組と
主な方向性の関連一覧

事業	主な方向性
(1) 環境意識の普及、啓発に関する事業	①地域社会との連携を深める
(2) 環境情報の発信事業	⑥発信力の強化
(3) 環境保全に関する調査、研究に関する事業	⑤環境学習ツール・プログラム開発力の強化
(4) 環境教育及び人材育成に関する事業	③人材育成
(5) 環境保全のための市民、事業者等との連携、支援に関する事業	②パートナーシップをこれまで以上に
(6) 環境意識の向上のための国際的な連携、支援に関する事業	①地域社会との連携を深める
(7) 環境保全活動に関する施設の管理運営	⑤環境学習ツール・プログラム開発力の強化
(8) その他、この法人の公益目的を達成するために必要な事業	

6 発信力の強化

【達成目標】
センター事業はもちろん、それを包括して「協会」としての事業や業績を広く周知するための体制（人、ソフト、ハードなど）が整っており、効果的な情報発信（必要な人に、必要なタイミングで、必要な量と質の情報を、発信）ができています。これにより、協会としての新たな事業連携先や顧客になり得るところに情報が発信され、関係性が構築されています。

1 地域社会との連携を深める

【達成目標】
協会は様々なテーマ・関わり方で、地域で活躍する団体との協力関係をつくり、地域社会の特徴・生活圏・課題に沿った各地域拠点での主体的な「環境に配慮した地域活動」が、モデルとして実験され継続実施している。

2 パートナーシップをこれまで以上に

【達成目標】
協会の様々な事業が、パートナーシップ型で推進され、多くのパートナーとの関係性が構築されている。また、組織の経営・運営にもかかる新しいパートナーシップ型のモデルができています。

5 環境学習ツール・プログラム開発力の強化

【達成目標】
プログラム開発にあたっては社会のニーズや対象者の発達段階を踏まえ、魅力あるテーマ・内容のプログラムを開発し、実施している。また地域へのアウトリーチを促進し、地域における人材育成を進めるために、環境分野だけでなく様々な団体とのパートナーシップにより、それぞれの地域や対象にあったモデルプログラムを開発し、実施している。

4 京都における環境保全活動・環境教育のノウハウを全国・世界へ波及

【達成目標】
京都におけるパートナーシップによる気候変動対策・都市型環境教育推進をはじめとした様々なローカルモデルが日本国内の他の地域だけでなく、アジアをはじめとした世界でも展開されている（少なくとも1か国以上の展開）。協会はそのコーディネートの中核として、京都の各種団体のノウハウを活かし、世界へ発信する役割を担っている。

3 人材育成

【達成目標】
協会は、人材育成のステップ「知っている人→伝える人・動く人→動かす人・つなぐ人・しかける人」のなかで、ボランティア事業としては「知っている人」、「伝える人・動く人」を育てることを重点化している。また、地域において「動かす人・つなぐ人・しかける人」の人材育成を図るため、必要なプログラムを整えている。

6 発信力の強化

【達成目標】
「情報を発信する」ことで、様々な人・組織の共感・信頼を得て、その協力の中で、より質の高い事業を展開することができている。（新たな事業分野に取り組むことができている。／これにより、財源の多様化が進み、協会の自立性が高まっている。）

1 地域社会との連携を深める

【達成目標】
協会が様々なテーマ・関わり方で、地域で活躍する団体との協力関係をつくり、地域社会の特徴・生活圏・課題に沿った各地域拠点での主体的な「環境に配慮した地域活動」をつくるノウハウが、京都市以外にも提供できるようになっている。

5 環境学習ツール・プログラム開発力の強化

【達成目標】
2020年に引き続き、社会のニーズや対象者の発達段階をふまえ、魅力あるテーマ・内容のプログラムを開発し、実施している。また地域へのアウトリーチを促進し、地域における人材育成をより進めるために、これまで以上に幅広い対象にあわせたモデルプログラムを開発し、実施する。さらに開発・実施の過程で得たノウハウを京都内外へ広く発信することで対価を得ることにつながる。

2 パートナーシップをこれまで以上に

【達成目標】
環境分野の活動における中間支援組織の役割を担っており、様々な主体を適切につなぎ、パートナーシップ型の事業展開を支援している。これにより、京都の中での様々なパートナー同士のネットワークを形成し、京都の環境ソーシャルキャピタルを醸成・向上させる役割を担っている。

4 京都における環境保全活動・環境教育のノウハウを全国・世界へ波及

【達成目標】
京都の環境保全活動・環境教育のノウハウが協会において整理され、協会を通じて国内外で応用できる体制が整っており、アジアをはじめとする世界からも注目される存在となっている。

3 人材育成

【達成目標】
2020年までに整えたプログラムをもとに、「動かす人・つなぐ人・しかける人」を育てるためのモデル事業が複数地域において実施されている。

私たちと一緒に持続可能な地域社会づくりに取り組みませんか？

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会は、京エコロジーセンターの管理運営、環境ボランティアの養成・マネジメント、地域に入り込んだ環境まちづくりの支援等の事業を通じ、これまで様々な経験とノウハウを蓄積してきました。その積み重ねと職員それぞれのスキルを生かし、皆様の活動に関する多様なニーズにお応えします。



講師の派遣

環境を切り口にした講座やワークショップの講師を派遣できます。また、セミナーやシンポジウム等に職員を派遣し、環境学習や環境保全活動の場づくりをお手伝いします。

HPのメールフォーム・電話、または直接来館にてお気軽にご相談ください。

公益財団法人
京都市環境保全活動推進協会 HP
URL:<https://keaa.or.jp/>



コンサルテーション

環境学習施設の運営・展示の開発・市民活動団体の支援やネットワーク化・ボランティア等市民参画の仕組みづくり等を支援します。



インフォメーション

●住所 〒612-0031
京都市伏見区深草池ノ内町13 京エコロジーセンター内
☎075-641-0911 FAX 075-641-0912

京エコロジーセンター(京都市環境保全活動センター)

●開館時間 9時～21時(1・2階展示は17時まで)
●休館日 木曜日(祝日の場合は翌平日)

●アクセス 【京阪電車】
藤森駅:下車、西へ徒歩約5分
【地下鉄・近鉄】
竹田駅:下車、東へ徒歩約12分
【バス】
105・南5・臨南5・南8
「青少年科学センター前」
下車、南へ徒歩約2分



本報告書に掲載した情報以外にも様々な情報を発信しています。

- 京エコロジーセンターWEBサイト <https://www.miyako-eco.jp>
- 京エコロジーセンターブログも是非ご覧ください <https://www.miyako-eco.jp/blog/>
- 京エコロジーセンターFacebook https://www.facebook.com/miyakoeco@miyako_eco
- 京エコロジーセンターTwitter https://twitter.com/miyako_eco



協会の歩み(概要)

持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言

中期計画策定

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会に改称(4月1日)

京エコロジーセンター指定管理者による運営・管理開始(第3期)

京エコロジーセンター指定管理者による運営・管理開始(第2期)

京エコロジーセンター指定管理者による運営・管理開始(第1期)

京エコロジーセンターの運営開始(4月)

財団法人京都市環境事業協会設立(2月)

京エコロジーセンターの歩み(概要)

平成30年 **2018**
平成29年 **2017**
平成28年 **2016**
平成27年 **2015**
平成26年 **2014**
平成25年 **2013**
平成24年 **2012**
平成23年 **2011**
平成21年 **2009**
平成18年 **2006**
平成17年 **2005**
平成14年 **2002**
平成13年 **2001**
平成12年 **2000**
平成11年 **1999**
平成10年 **1998**
平成9年 **1997**
平成8年 **1996**
平成7年 **1995**
平成6年 **1994**

京エコロジーセンターの年間来館者数が2年連続10万人を達成(3月26日)

京エコロジーセンターの年間の来館者数が初めて10万人を達成(3月28日)
国連気候変動枠組条約第21回締約国会議にてパリ協定採択

京エコロジーセンターの開館以来の来館が100万人を達成(7月18日)

京エコロジーセンター開館10周年(4月21日)

京エコロジーセンター第2期中長期計画策定(3月)
→2015年度事業プロジェクト到達点を明記
改正京都市地球温暖化対策条例施行(4月1日)
→温室効果ガス総排出量の削減目標を数値化
2020年25%削減、2030年40%削減(1990年比)

京都議定書発効(2月16日)
京都市地球温暖化対策条例施行(4月1日)
京エコロジーセンター中長期計画を策定

京エコロジーセンター開館(4月)

京エコロジーセンターの環境ボランティア養成を開始(9月)

建設工事着工。
環境学習・エコロジーセンター(仮称)事業検討委員会・企画委員会を設置
→市民・各種団体・NPO・事業者・教育関係者・行政で構成現在:事業運営委員会

環境学習・エコロジーセンター基本計画を策定

環境学習・エコロジーセンター(仮称)基本構想策定懇話会を設置

国連気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3 161カ国参加)→京都議定書を採択

新京都市環境管理計画策定
→COP 記念センター構想

国連気候変動枠組条約第1回締約国会議(COP1 ベルリン)

京都市一般廃棄物処理基本構想策定
→ごみ問題の学習拠点施設の必要性を位置づけ

沿革

1997年に「地球温暖化防止京都会議(COP3)」が開催されたことを記念して、2002年に開設された環境学習や環境保全活動の輪を広げるための拠点施設「京都市環境保全活動センター(京エコロジーセンター)」の管理運営を通して、協会は市民の皆さまと共に歩んできました。

2014年4月には「公益財団法人京都市環境保全活動推進協会」へと改称し、持続可能な社会の実現を目指して、国内外で、市民・事業者・行政・教育機関と連携を強め、広く環境保全活動を推進することにより、環境に配慮した市民の自主的な行動による地域社会づくりに寄与できるよう、さらなる歩みをすすめています。





2018

事業報告書

公益財団法人
京都市環境保全活動推進協会

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13 ☎ 075-641-0911 FAX 075-641-0912



- 用紙：適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
- インキ：大豆油インキを含む植物油インキ
- 印刷：有害な廃液を排出しない水なし印刷